

ピロリ菌と貧血



ピロリ菌と貧血の関係について教えてください。



ピロリ菌は胃に好んで感染し、さまざまな

病気を引き起こす細菌です。萎縮性胃炎や胃潰瘍、十二指腸潰瘍、血小板減少性紫斑病の主な原因で、胃が

んや特殊な胃リンパ腫の発症を助長します。

貧血は酸素を運搬する

赤血球が減少する病態の総称で、多数の原因の中で最も多いのが、鉄の欠乏により起こる鉄欠乏性貧血です。鉄は食物中に含まれており十二指腸や小腸で吸収されます。胃にピロリ菌が感染して、萎縮性胃炎になると胃酸の



分泌の低下が起こり、鉄が吸収されにくくなります。また、ピロリ菌が増殖する時は鉄が消費され、鉄の吸収が低下します。さらに胃・十二指腸潰瘍から出血を起こすと鉄欠乏の原因となります。ピロリ菌を退治するための治療法は確立しており、高率で除菌が可能です。鉄欠乏性貧血を繰り返す場合は、胃の検査とともに調べてもらったよいでしょう。



高知高須病院附属安芸診療所
院長 水口 隆さん

安芸市港町2-635 TEL0887-34-3848 〈内科〉